

## 第2部 分科会の取り組み紹介

### 1. 早期被害把握分科会—産官学民、特に企業における迅速な顧客対応のために、被災地における早期被害把握技術を実装する—

鵜飼 章弘（東京海上日動火災保険株式会社 災害対策推進室長）

井ノ口宗成（富山大学 都市デザイン学部 准教授）

鵜飼氏は「災害時の保険金を支払う損害保険会社として一番重要なことは、被害の状況をできるだけ早く正確に把握することです」と語りました。従来の気象庁の地震情報だけではなく、社内デ活で提案されたりリアルタイム被災推定の活用などが非常に効果的と考えており、「本プロジェクトのデ活ならびに防災科研との連携に大きな期待を寄せているところです」と述べました。

デ活との具体的な取り組みとして、昨年の北海道胆振東部地震のときにサブプロ（a）から分科会活動について提案を受け、実際に進めたことを鵜飼氏は説明しました。下図は、リアルタイムの被害推定と東京海上日動火災保険の顧客情報を重ね合わせたものです。「デモのデータですが、こういったもので実際の被害と推定がどういう関係にあるのか検証しました」と鵜飼氏は説明を行いました。

さらに「デ活で熊本地震や胆振東部地震など、過去の地震災害に対しての豊富な住家被災認定調査結果などもあるということなので、今後はこういったものも活用しながら、早期に被害把握するための方法を分科会の中で検討していきたいと思っています」と今後のデ活との協力について抱負を語りました。

井ノ口氏は「東京海上日動とこの分科会でどういうことを考えていくかですが、さまざまな情報の粒度を細かくすると、たくさんのがわかります。しかし、それに対して人がそこまで細かく対応できるかというと、そうはいきません」と説明。調査にあたってはいろいろな準備があり、体制を確立し安全を確保して対応にあたる必要性を語りました。



鵜飼氏 (右) と井ノ口氏 (左)

デ活  
データ活用協議会

早期被害把握分科会  
Tokyo Metropolitan Resilience Project - 2019  
防災科研

胆振東部地震におけるデ活分科会活動：被害推定の試行

ホーム > 過去災害 (ハザード) マッシュアップ (全顧客ポイント) 震度階付き

コンテンツ

- ※ 震度階付き顧客ポイント (定データ)
- ※ 顧客ポイント (1月14日更新)
- ※ 顧客ポイント (1月14日更新)

My Map Service  
地図機能

防災科研：リアルタイム地震被害推定情報(SIP成果)の利活用も手進にて検討